

令和5年度 第1回飯島町総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年2月9日(金)
開会 午前10時30分 閉会 午前11時45分
- 2 開催場所 西庁舎 営農研修室
- 3 議 題
(1) 教育行政に関する懇談
(2) その他
- 4 出席又は欠席した構成員氏名
出席構成員

町 長	唐澤 隆
教 育 長	片桐 健
同 職 務 代 理	桃澤 宗夫
教 育 委 員	松崎 充恵
教 育 委 員	竹内 榮一
教 育 委 員	橋場 沙弓
- 5 町・教育委員会事務局職員の職氏名

副 町 長	宮下 寛
健康福祉課長	藤木 真由美
教 育 次 長	齋藤 鈴彦
こ ど も 室 長	伊井島 伸也
子育て支援担当係長	座光寺 恵
生涯学習係長	丸山 浩隆
生涯学習担当幹	春日 有美
指 導 主 事	大野 俊浩
生涯学習係	太田 由美
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 議事の詳細 別紙のとおり

令和５年度 第１回飯島町総合教育会議

開 会

令和６年２月９日 午前１０時３０分

１ 開会

齋藤教育次長

皆さんお疲れ様です。定刻となりましたのでこれから令和５年度第１回飯島町総合教育会議を始めさせていただきます。進行を務めさせていただきます、教育次長の齋藤です。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが開会にあたり唐澤町長からご挨拶をいただきます。

唐澤町長

改めまして、みなさんおはようございます。公私ともにお忙しいところを教育委員の皆様方につきましては総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

この会議は、自分が副町長に就任した年で平成２７年に設置され今年で８年目ということでございます。当時も、いろいろな教育委員の皆さんからご意見をいただきながら町の教育行政を、どういうふうに進めていったらいいか協議したことを覚えています。その当時から教育環境もだいぶ変わってまいりました。皆さんがいろいろな角度から教育について考えていく時だと思えます。いろんな子どもさん達が増えてきて、多様性のなかで未来を担う子どもたちがどのようにこれから教育を受けていったらいいかということをしつかりとみなさん全員で共有していく必要があるかなと感じているところでございます。今日はいろいろなテーマでご意見をいただくような機会を持ってまいりたいと思います。短時間ではありますが、実のある会議にしていきたいと思しますので、是非ともご協力を頂きたいと思えます。よろしくお願いいたします。

齋藤教育次長

ありがとうございました。それではレジュメに従いまして進めてまいりたいと思えます。

その前に、今年初めての会議でございますので最初に自己紹介をさせていただきます。最初に副町長からお願いいたします。

宮下副町長

副町長の宮下寛でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

藤木健康福祉課長

健康福祉課の課長の藤木と申します。よろしくお願いいたします。

片桐教育長

教育長の片桐といいます。よろしくお願いいたします。

桃澤代理

職務代理の桃澤と申します。本郷の出身です。

松崎委員

田切区の教育委員の松崎と申します。よろしくお願いいたします。

竹内委員

教育委員の竹内榮一といいます。七久保出身です。よろしくお願いいたします。

橋場委員

飯島区の教育委員の橋場沙弓です。よろしくお願いいたします

伊井島室長

こども室長の伊井島です。よろしくお願いいたします。

座光寺子育て支援担当係長
丸山生涯学習係長
春日生涯学習担当幹
大野指導主事
太田
齋藤次長

こども室子育て支援担当係長の座光寺です。よろしくお願いします
生涯学習係長の丸山です。よろしくお願いします。
生涯学習担当幹の春日です。よろしくお願いします。
こども室、指導主事の大野です。よろしくお願いします。
生涯学習係の太田と申します。よろしくお願いします。

ありがとうございました。それでは早速お手元の資料3の総合教育会議でござい
ます。資料3をお願いいたします。

2枚目をお願いします。飯島町総合教育会議設置要綱でござい
ます。設置要綱第1条の設置ですが平成27年に地方広域教育行政の組織及び運営に関する
法律に基づいて、飯島町総合教育会議が設置されました。尚この法律に基づい
てすべての自治体にこのような会議が設置されております。第2条の任務でござ
います。第1号から3号までありますが、この会議につきましては、町長そ
れから教育委員会が十分な意思疎通を図って飯島町の教育の課題や目指すべ
き姿を共有し、より一層の教育行政を推進するために行っているものでござい
ます。それから1条飛びまして、第4条の会議でござい
ます。第1項、会議は町長が招集し会議の議長になるということ
でござい
ます。以降資料の4の協議事項以降の議事につきましては唐澤町長
よろしくお願いします。

4 協議事項

(1) 教育行政に関する懇談

唐澤町長

それでは、協議事項に入らせていただきます。

各自、教育行政に関する懇談ということであらかじめ6項目について、ご提案
をいただいておりますので項目ごとに提言をいただきながら、それについて懇
談をしまいたいと思いますので、よろしくお願いします。

1番の人口減少に伴う小中学校の教育再編統合について、よろしくお願
い
します。

桃澤代理

少子化の問題です。小学校の統廃合問題に直結する問題でしたので触れたく
なかったのですが、別紙の表をご覧くださいとお分かりのように、入学前の0
歳から6歳までの人数が記されています。現状の飯島小、七久保小学校並立と
いう前提でみます。この表はこの3月から1年ずつ右へずれていきますので、
5年後には、飯小、七小合わせて27名ということになり、規定から言います
と、35名を超える場合は2クラスでいいですよということですが、5年後には
どうだろうなということになる。その時になって統合だという話は、七久保小
学校の特殊性と言いますか歴史を考えますと、突然言われても心に落ちない。
尚且つ高校はご承知の様に再編の具体化が進められ、動き出している。幸いそ

れに携われた前教育長の澤井さんが町内に住んでおりますし、早急に5年後を目指すというか何年後になるか、当座はやりくりして動かすようなことを考えながらプロジェクトチームを設置していただいて、こども室の要員強化も含め、調査研究と対処方針、学校の在り方も含め検討を是非やっていただけたらと思います。近隣の市町村では、例えば中川村でも同じような問題を抱えていまして、中川村では小中一貫校、義務教育校を作ろうと既に立てていまして、ロードマップで言いますと9年間の3年目に入っており、あと6年で義務教育学校に移管していくと、それも中川村民あげての義務教育学校を作る話になっているようです。同じような方向では先進校では白河村ってところがある。白河学園を作ったその成果がずいぶん出ている話を聞いたりします。飯島町の子育て義務教育がどうあるべきなのか調査研究をする専門家委員会を作る時期に来ている。早急に飯島町の義務教育の学校体制の構築、再構築をするという方針を町政に出していける方向に向かっていきたいと考えていますが、町長としていかがですかというのが1つ目のご相談です。

唐澤町長

ありがとうございます。自分は子どもの人数よりは子どもたちの学びをどういう風に確保していくかと思っています。人数が減ったから統廃合とか小中一貫とかそういうことなく、今の子どもさんたちが伸び伸びと教育環境で学べ、将来飯島町を担っていく子どもたちになってもらったところを基本に考えていきたいと思っています。例えば岡山県総社市なぎ地区というところがありますが、そこでは英語特区そういう特区を作りまして域外から子供たちを呼び寄せているところがありますし、例えば6年、3年の9年の一貫校ではなく保育園から12年の一貫で育てていく環境を整備したのが総社市。そういったところもあります。小学校で言えば6年学ぶわけですけども6年ではなく、6年生のところを中学校の準備期間ということで5年、4年制にしているところもあります。そんなことで、子どもたちの学びにどう応えていくか、学びの仕組みを研究していくのが1番最初かなと、人数が七久保であと5年後に7人になってしまうということ、人数で考えていくよりそういった子供たちの学びの環境を深くする。やはり学校というのは地域コミュニティの基礎でございますので、統廃合してどちらかにくっ付けたかではなくて、地域の皆さんがきちんと教育その学校教育にあるいは、そういった義務教育に関われるようなそういった仕組みを作っていく事が重要であると自分なりには考えている。ただ、こういう小さい町で二つの学校、一つの中学校を支えていくことはこれから厳しい状況になりますので、少し広域的な取り組みを考えていく必要があると思っています。特に自分の中では今、中部伊那、飯島、中川、松川、大鹿で、色々な行政的な取り組みがあります、そういった広域的な取り組みで色々な教育環境を考えていく、例えば高校であれば、松川高校をどうしていくか。これ

は、4つの町村でしっかり考えていくべきだと思いますし、高校再編で駒工が無くなりますので、駒工をどうしていくか。そういうところもきちんと、連携しながら考えていく必要があると思いますので、一市町村にとらわれずに大きなまとまりで、教育環境を考えていくということも必要かなと自分は考えています。これは私見ですので、先程提案のありましたプロジェクトチームというか、これからの教育環境を考えていくチームでの検討をしていけばいいと思います。よろしくお願いします。

桃澤代理

是非、プロジェクトチームを含めて外部の委員さんを入れた調査委員会を作っていけたらと思いますが、その時の方向として、他の町村との連携というのは、なかなか私たち飯島町教育委員としてはやりにくいのですが、どんなやり方があるのか、できるのか。それから、七久保小学校について、この人数で上がっていくとすると、先生対生徒の人数がこういう状況になっていく、これ言っているのか、教育の効率化というものも含めですが、いかがなものか気になるところです。例えば、七久保小学校と飯島小学校を飯島町として2つ並立していくかどうかというのは、それぞれ校長先生、教頭先生がいるわけですし、民間意識からすると法律的にいかがなものなのか。少なければ少なくていいという問題でもないという気がします。その辺も含めて統廃合というと非常に後ろ向きなので、飯島町の先程、町長の言われた子どもの学び場がどうなっていくのかの視点も入れて、統廃合も一つの選択肢としてやっていく方向として出していないと、地域の要望だけで議事をし続けるのは予算的にも厳しい。先生の人数もどんどん削られる。この網掛けをしてあるあたりのところは、先生の人数が減るだろうという予想の元網掛けをしました。

片桐教育長
桃澤代理

学級数が微妙になるというあたりですね。

加配の仕組みなんかも非常に厳しく、おそらく県の教育委員会とか文科省の指導では飯小七小の並立はいかがなものでしょうか、という話が出てくると思います。残念ですが。当然、乗り切ったとしても、一つの案としては今学区みたいなエリアが指定されていますが、本郷の人たちの希望する人は七久保小学校にいてもいいよというような気もしていますが、その辺はいかがですか。

唐澤町長

人数が少なくなるとそれだけ人との関りも少なくなりますので、人数は多い方が良くと思いますけれど、その辺の調整はなかなか地域の合意もいると思いますので難しいと思います。その辺を保育園の時からやっているとスムーズにいくのではないかと自分は考えるのですが、義務教育になってからそういう仕組みを作っていくのはなかなか難しいので、今の保育園を二つくらいにしてその二つの保育園で次の6年間というような仕組みでもいいのかなと思います。その中で本郷は七久保保育園に行きましょう。飯島第二保育園ですけど、こっちは第一保育園、そんな形に分けて、七久保とか飯島って名前をつけると難し

片桐教育長

くなるので、そういうような呼び方で学校をきちんと定義付けしていくってことも大事ではないかと思います。

いいですか？私も話させていただきます。統合云々という話の前に正直私たちが進めて来ていないので、飯島町の子どもたちの義務教育を考えると、15歳の子どもたちがどのように育っていけばいいのかを、私たちは考えていかなくてもいけない、中学は一校なので、そのためにどういう学校にしていかなくてもいけないか、町の子どもたちの姿を話す、町民の人たちを含め、子どもたちを含めて話す機会が必要なんじゃないかなと、それは今後の学校がどうなっていきたいというあたりの話を話す場面を作って行きたいなと思っていて、手始めは、来年度11月に中学生と地域の人が集まって、学校ってどうなっていきたいみたいなそういう話す場面を作っていこうと、それが桃澤代理のおっしゃるプロジェクトで、統合が前提ではなく、もっとそのところを話していく必要があるんじゃないかなと思っていて、中学は一校になるので、七久保小には七久保小のスタイルがあり、飯島小には飯島小のスタイルがあるんだけど、中学は一緒になって飯島町の子どもになるわけだから、そのへんの別々の所にあったとしても、一貫性のあるというか目指すところはともに共通でありたいというところがあるので、そういう話し合い、皆のそれぞれの願いや思いを語り合う場面を作っていけたらと考えている。その後でどういう学校の仕組みというか学校の形はどういうのがいいのかという議論はその先の話なのかなと感じています。

唐澤町長
副町長

事務レベルではどうですか。

難しいですよ。住民の意識としては少子高齢化という言葉だけを聞いていただけなので、教育の問題として子どもたちの問題としてどう捉えるかというところから始めないと無理だなと思ってます。中川は計画を10年くらいかけてやって、やっと小中一貫でやりますかという話になったと私も聞いているのですが、意外と親御さんが素直にスパッと「こうがいいんじゃない」という話で、割と年寄の衆の方が、そっちに行かなかったという意識付けだったという話を聞いておりまして、そのあたりの議論をどのようにしていくのか。

桃澤代理

中川は、どういう学校がほしいという運動みたいに意見を徴集する場がありました。チャオのコーナーにボードがあり、中川村ではどんな学校になったらいいですかと、保護者用、子ども用、関係ない大人用があり貼ってあります。行政はそういう仕組み作りにいよいよ取り掛かろうとしている。是非、熱心な熱い職員をプロジェクトの要に配置していただけると助かります。

プロジェクトチームを作るのか、教育長さんが言われたように、地域の中で色々な方たちが懇談する機会を作りながら醸成していくのか、その辺は事務局の方で考えていただいて、新年度の中でスタートしていただかないとマ

唐澤町長
桃澤代理

ズイと思いますので是非検討していただきたいと思います。

わかりました。教育長さん、それでよろしいですか。

2 番目です。お金のかかる話です。歴史民俗資料館の陣嶺館ですが、私もたまに見に行くと、7 千年前、1 万年前に繋がる話とか、人類がエジプトだかアフリカを出発してインド経由で来た縄文人の素晴らしい文化が残っているのを見ると、ああいうものを飯島町にちゃんと残したいなという気持ちになったところです。ご承知のように陣嶺館は 50 年経過し老朽化している。色々な人の意見を聞きますと立地としてもあまり望ましくないようなことを聞きます。この際飯島町の文化や歴史に関わるようなものをしっかり保存していくのか、町長さんの方針姿勢として出していただけると、陣嶺館の建て替えも 10 億以上かかるのではないかと感じますが、おいおい建て替えも含めて検討に入る時期にきている。社会教育委員さんたちの意見も含めて、飯島町の文化資産をどうするか、こうあるべきと、町長さんに提言するように希望としてあります。そのためには、熱い学芸員を一人二人配置していただいて育てていただきたい。これも中川村の例なのですが、中川村の歴史民俗資料館を建て替えると決定したようですが、聞くとところ飯島で育った学芸員さんが向こうへ行っちゃったという話をチラッと聞いたのですが、是非そういうことがないように、今度は残って新しいところで育てて、熱い陣嶺館にしていってもらいたい。個人的には文化資産を残してほしい。方針を打ち出していただけたら、是非これをちょっと議論していただきたいので。丸山さんお願いします。

丸山係長

数年来というか十数年来、やっと教育委員の皆さんには 12 月の時に陣嶺館を見ていただく機会があり、社会教育委員さんに見ていただいて意見をお聞きするというのを始めた段階です。その中で話が出るのは、ここじゃなくて文化館に併設するのがこういう施設、図書館があって芸術文化、それから歴史文化、1 ヶ所で揃ってあるのがいいという意見が出ます。私もその意見ですけれど、是非文化館の周辺の活性化に合わせた一つにこれを入れていけないかということを考えていければというふうに思います。ただ民俗資料館博物館を新規で建てるとお金がたくさんかかる、財源がないですね。一つこういうのを町としてどう考えて歴史文化、文化財こういったものをどう町づくりに活かしていくかっていう基本的な構想ですとか計画みたいなものをまず持ってもらった上で、それを作るための歴史文化基本構想みたいなものの材料を、役場のすべての部署をはじめ産業界とか町内の色んな団体の皆様に寄って頂いて、歴史文化財を活かすとか大事にするとかその話をどう進めるとか重ね、その方向によって文化館に併設しましょう、いやいやこうしましょうというようにもっていかなくてはならないと考えています。構想計画始まった段階というのが現状です。

唐澤町長

自分の考えとしては、歴史遺産をきちんと後世に伝えていくというのは基本だと思います。ただしどういう風に伝えていくかというところは、さっき丸山係長が言ったように町の方針をきちんと立てるべきだと思います。陣嶺館の建て替えありきではなく、どういう方向でこのような文化遺産を後世に伝えていくか、色々とやり方はあると思う。今は北信にしかないのですが、南信に県のそういった施設を誘致していくということも一つの方法ですし、色々なやり方はあると思います。町の歴史的遺産をどうしていくか、皆さんの合意で将来構想を持って行き後世に伝えていくということではないかと思う。施設ありきではなくそういった住民意識として後世にどう残していくかを醸成していかななくてはいけないと思います。行政的に言いますと、施設を増やすというのは今、なかなか厳しいところでして、施設計画の中では4,500平米を2030年までに減らしていく目標もあり、町の規模からいって公共施設をたくさん持てない状況もありますので、それも照らし合わせながら、今ある施設をリノベーションしていくという方法もありますので、そういう中で施設は検討していく。まずは歴史遺産をどういうふうに残していくかというのを住民合意の基に作っていくというのが非常に重要であると思います。

陣嶺館は結構よく出来ていますね。

丸山係長
唐澤町長

建物としては頑丈ですし、雨漏りもしていません。

あの当時の施設としては一番町内で優れた施設だと思う。自分のイメージですが、この間も行ってきたのですが、窓をサッシ等に代えれば雨風はしのげると思いますので当分は大丈夫だと思います。中に収蔵する物は今回入らないと思いますので、その辺も含めて将来的な構想を検討していかなければいけないと思います。

宮下副町長

今町長が言いましたように、お金の問題もありますし、施設面積の問題もあります。人口減少は止められないという国の根本的な考えの中で、自治体も施設を減らしていきなさいという日本政府の方針です。それをやっていかないと色んな支障が出てきますし、実際、少子高齢化で人口が減っていく中で大きな物を全部維持していくというのは非常に難しくなってくるのが現実だと思っています。国も県も市町村もそんなにお金があるわけではないので、どうやって維持していくのかをきちんと考えないといけない時代になっている。さっき丸山係長が話したように色んなものをどう活かしていくか、今の時代に合ったものを作っていくことを考えていかななくてはいけない。あそこは収蔵庫化しているとは思いますが、どの辺までどうやっていくか、飯島町の歴史と文化をどう残していくか、先ほどの小学校や中学校の問題ではないですが、話をしてから取り掛かるということをしないと方向性を間違えてしまう。今のDXを使った色々な見せ方、飯島町の人たちにどう広めていくかが一番の基本の所

にあつて、そこから考えるべきだと、単に施設ありきではないと思っております。私の立場としてはあまりお金を使いたくないという基本的な立場ではございますけれども、今町長言ったように南信に色々持ってくるとかやり方はあると思います。色々なものを残していきたいときちんとした方向性があれば趣旨に賛同していただける方はいらっしゃるかと思います。今はふるさと納税などの制度もございますので、そういうものをうまく活用しながら町の歴史と文化を残していくという方向付けをきちんとしていかないとまずいと思います。昨年度若手のプロジェクトの中で話をしたら、歴史のアーカイブで色々やろうという話もありましたので、そういうことも方向性が決まれば色々な手段は持っていけると思っています。結論めいたことは教育委員の皆さんや社会教育委員の皆さん方がいらっしゃるので、ご意見を聞きながら、先ほどのプロジェクトではありませんが、住民意識の中できちんとやらないといけない問題があると思っています。そういう意識で物事を進めるのがいいかなと思っています。

桃澤代理

限界にきていることは確かですので、整備統廃合というか現状の飯島町がどうなのか、色々勉強する時期に来ている。それなりに要因みたいなものを勉強させてもらい提案していきたいと思います。

唐澤町長

町の行政としての進め方としては、町の第6次総合計画の中に盛り込んでいかなないとなかなか事業を実施できません。その中で3年ごとに見直しをかけていますので、住民の皆さんの合意形成をしながら、その計画の中に盛り込んで行くのが重要ではないかと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

次よろしいですか。では子育て支援策について

松崎委員

その前に、陣嶺館のことですが、先月丸山さんに案内をしてもらったのですが、とても説明と物は良かったのですが環境が悪く寒く、いい話をされていますが寒さの方が勝ってしまったので、まず環境を整えないと見るということができない、夏はとても暑いです。直す前にまず環境を見直していただきたいと思います。

第3子以降に子育て応援給付金ということですが、今まず子どもを持たないということがありますので、第3子までは遠いと思います。まず一人目の壁というのがあり、それをどうするかというのが大事なのではないか、一人目の壁がある前にまず若い人が結婚家庭を持たない、結婚もシングルや色々多種多様がありますが、やはり家庭を持たないと子ども、教育、育てるということができないので、第3子というのは遠いような意見を持ちます。第1子その前にまず家庭をとということを町でアピールできないかなというのがあります。ちょうど平成元年生まれが34歳なので平成10年位の子たちがだんだん成人して勤めてそろそろ慣れて家庭をとということがありますので、その人たちがもう一度ふるさとで家庭を持って町で人口を増やすということもありますので、第3

子以降ではなく第1子からという意見を出しました。

もう一つ、高校ですが、奨学金はあるのですが年収の壁ですね、審査を出してもなかなか認めてもらえない。現に今高校生でバイトをしているという子が結構います。3年生になると進学の問題がありますし、大学などは地方もありますが結局は都心に行く。私たちは住むところも、都心の人たちは都心の自宅から通えますが、居住や通学でお金がかかるというところもありますから、高校入学は、町でお金を少し出していただきたい、収入に関係なく奨学金や補助してほしいというものです。大学も地方からきた生徒もバイトの掛け持ちや、自分が頑張らないといけないというのがありますので、都市の子と地域の差がそこにもあり、ここのところでも補助していただけると助かります。

唐澤町長

自分の公約、子育ての中では経済的支援も当然ですが、もう一つの柱は子育てに不安がないような仕組みを作っていくというのでありまして、その2つを組み合わせながらやっていきたいというのが公約となっています。第1子と第2子は、今公的な補助があるのですが第3子にないというのがあり、それで第3子と設けましたが、基本的には宮田や他の市町村をみるとかなりの金額を支援に支出しているのですが、飯島の場合にはそういった大きな金額が支給できてないです。いずれにせよ全体的なトータルの仕組みの中で考えていきたいと思います。すぐ実現ということではないのですが、これから担当課も含めて検討していくところです。

松崎委員

子育ての前にまず家庭を持つということを考えていかないといけないので、そこに力を入れていただきたいと思います。そうしないと少子化対策にまずならないのでお願いします。

唐澤町長

そうですね、非正規労働者がすごく増えた時代を終えまして、子育てに将来的に踏み込めない、結婚にも踏み込めないという皆さんが多いので、その辺はまず働き方改革で賃金が上昇する仕組みになっていますが、まだまだ追いつかない状況がありますので、その辺の根本的な社会的な構造から変えていかないと、なかなか子育てというか、結婚して子育てというところに踏み込めないという方たちが多いというのは誰もが言うところですので、その辺は社会的な全体の中で構造改革をしていくことがあります。町として今何ができるのか、相談員もそうですし、結婚していただくような環境作りをしていくのも一つの支援、また将来的な子育てに不安を持っている人たちについて経済的な支援や、あるいはそういった悩み事や不安を解消するような支援策をやっていくことの二本柱でやっていくべきだと自分は考えています。

松崎委員

それにプラスで、子育て支援もそうですが、我々の年代が抱えている、飯島に両親がいる、自分は外で働いているが自分の両親は介護が必要になってきているといった場合に、なかなか行ったり来たりするのが難しく、子育て世代も

大事ですが働き盛りのところで親の介護そういうところも、子育てと二つその後の人たちの保護というところも検討していただきたい。その人たちが帰ってきて、介護や育てやすい環境があれば少子化対策より先に町に人口が増えるかもしれないというのがありますので、その2本同時に子育てとその後の人たちを同時にすすめていただけたらいいと思います。

唐澤町長
齋藤次長

その辺はいかがですか

事務局としても、こういった子育て支援については財源としても必要になってくると思いますので、昨年以前より国や新内閣では異次元の子育て政策ということで案を出されており、長野県の方でも支援に対する補助も検討してお示しして来てくださっております。事務局としてはアンテナを高くし、できる限り有利な補助金をもらって、支援に活用できるよう進めていきたいと考えております。

藤木課長

貴重なご意見ありがとうございます。健康福祉課では割と行政が縦割りになっているところですが、そこに横串を刺して連携をしながら進めていくところにまたプラスして効果が生まれてくると感じており、その中でも健康福祉課の中では、母子保健から高齢福祉また全体的な地域福祉の部分の業務を担っております。その中で地域作りにおいては、高齢だからとか障がいがあるからだとかそういうのを取っ払って、誰にでも居場所があるだとかそういう地域作りを目指しております。昔はお家にお嫁さんが来て大きなお家で子育てする時代から、核家族が普通の状況になってきているのかなと思います。これから先を見てみますと核家族がどんどん増えていく。若いお母さん、若い夫婦も一つの家、おじいちゃんおばあちゃんも一つの家という核家族単身世帯が増えていくというのが目に見えてわかっております。昔と違って地域の中の課題ってなんだろうといった時に、一人暮らしまた高齢のみでどうやって暮らしていこうとか、どうやって体が弱ってきた時にしていこうとかというのをどう支えていったらよいか、また若いお母さん若いご夫婦の悩み事が多い、昔と違って悩み事が違ってきている、そんなところをどう町が支援していこうとか、それぞれの部署で考えていますが、その中でも健康福祉も連携してどういう地域を作っていくかを考え進めていきたいと思っています。

唐澤町長

子育て支援は、色々に総合的な取り組みが必要だと思います。一番大事なのは、町民の皆さんがどういうふうに子育てに関わって向かい合っているのかというところだと思います。箕輪で子ども条例ができましたが、それぞれの立場の人たちがどういうふうに育て、将来の子どもたちの健全な育成に関わっていくか、柱を持ってやっていくべきだと思います。そのことも検討していく必要があると自分の中では思っております。奨学金の関係については今、ひなどり奨学基金とかありますので、そういったものを一つにまとめながら将来的には

竹内委員

町の中で色んな段階の皆さんに支援ができるよう仕組みを作っていきたい。その中で住民の皆さんがしっかり支援される必要があると思いますので、そういった合意形成を図りながら総合的な支援制度にしていきたいと自分の中では考えています。

教員負担軽減についてお願いします。

学校教育をしていく上で大事になるのが教員の仕事だと思います。ただ現実の教員の生活を見てみると非常に多忙化しているというのがあります。本来の業務はもちろんあるのですが、それをやりながら別の業務をこなしていかなければいけない、教員の仕事をやる上でも本来業務もまた増えてきているというのがあります。その一因としては英語教育もやらなくてはいけなくなったというのも負担感につながっているのかなと思います、あと事務的な仕事も増えてきているということで、教員の超過勤務も増えてきている。特に年度末とか年度初めになると多くなるということも聞いております。本来なら勤務時間内に終わるのが一番いいのでしょうけれど現実はなかなかそういうわけにはいかない。たいていの超過時間平均的には月 30 時間から 40 時間くらいがあるというように地元の学校の教頭先生からも聞いております。またさらに年度末年度初めになりますと 70 時間から 80 時間になる人もいると、一番多い人では月 100 時間くらいやった人もいると聞いております。そんなような状況下でやっておりますと、やはり教員として子どもと向き合うという本来の仕事が、やろうと思っても気力的にもなかなか難しくなっているのかなという懸念があります。生徒に対する細かい指導が行き届かなくなってしまうということになることに心配をしているわけでございます。それを改善するためにどうしたらいいのかというところを考えてみますと、もちろん学校の教員を増やしていけばいいのですが、なかなかそれも難しいという現実があるかと思います。その中でもう一つの方法としてあるのが、保育園とか学校支援員制度を創設するというのがこの前の町長さんの選挙公約でもあったと思います。従いまして支援員制度というのはそもそもどのようなものなのかというのちょっとお聞きしたいし、さらにそれがどのように配置されていくのかということもお尋ねしたいところだなと思っております。そのへんをひとつお願いします。

唐澤町長

今学校へ行く前の保育園の段階ですね、かなり加配を付けないと子どもさんたちの多様化が進んでおりまして、親御さんたちの要望に応えていくには、かなりの数の保育士さんが関わっている状況です。その子どもさんたちが学校に上がっていくということになりますと、また生活面でも学習面でも非常に先生方の負担が増えてくるということがありますので、そういった子どもさんたちの個別の悩み事や、そういったことに応えられるような支援員を学校の中に配

置していきたいというのが自分の考えです。なかなか制度にしていくにもお金がかかりますし、どのように支援をしていくのかということも難しいところもありますが、これから担当課と研究しながらやっていきます。とりあえず来年度予算の中で家庭相談員と特別教育支援アドバイザーを設置して、子どもさんたちや親御さんたちの悩みにお応えしていくような仕組みを作っていく予定です。それを足掛かりに、今は教育委員会の中から学校と関わり合いを持っていますが、そういった方たちが学校の中で活躍できるような仕組みを少しずつ考えていきたいと思っています。いずれにしても町単独の費用になってきますので、学年毎に設置するとかそういったことは非常に難しいと思いますので、とりあえずは学校に1名くらいずつ設置してお願いしていければいいと思っています。特に人材的な問題もあり厳しい面もありますが、お子さんや親御さんにしっかり寄り添いながら色々な不安を解消していくとともに、先生方の負担の軽減をしていければ、そういった構想で進めたいと思います。

竹内委員

わかりました。是非そういうことで進めて行っていただけたらと思います。教員の仕事があり過ぎるようになってきますと、教員になりたいと志望する人が少なくなってきたりしていきのではないかと懸念されております。それは裏を返せば教員の質の低下というところに繋がっていくということになりますので、やはり質を高めていくためにはある程度の競争試験を経た上での採用が必要になってくると思いますので、そのためにも魅力のある職場として学校があるという意味もあるのかなと思います。そういったことで先生たちが働きやすい職場を作っていくという観点を踏まえた上での色んな施策を作っていくということが大事なかなと思いますのでよろしく願いいたします。

唐澤町長

ありがとうございます。次の学校給食を。

竹内委員

学校給食の無償化と未満児保育料の無償化についてというお話でございます。これも親の負担軽減ということになるということだと思います。安心して子育てができる町づくりということを考えた時にお金がかかると、そこを何とか親の負担を軽減していくということだと思います。ただこれもまた言うのは簡単ですが、これをどうやって進めていくのかというのは難しい問題かと思いますが、そこをどういう筋道で実現していこうとしているのか、考え方をお聞きしたいと思います。

唐澤町長

学校給食の無償化については、国の方でも検討しておりますので、国の様子をみながら検討していくということになると思います。いずれにしても先ほど松崎委員さんの方からお聞きしたように、将来義務教育だけでもお金がかかるということですので、それが軽減されれば、非常に子どもを産んで育てていくというところで経済的な不安は解消されると思いますので、これは是非進めていきたいと思っています。保育園の関係では、保育園に出しているご家庭はい

いのですが、ご家庭で保育しているところは非常にバランス的に課題があると思いますので、保育園についてはそういったバランスも考えながら将来的に無償化を検討していきたいと思います。今の段階では、いつから無償化にするとは言えませんが、もうしばらく時間をいただいて自分は実施計画や新年度予算の編成でその中に盛り込んでいきたいと思っています。少し時間をいただきながらロードマップを作り施策を進めていきたいと思っています。

竹内委員

これは時間がかかることだというのは理解します。親御さんたちの負担軽減はもちろん大事な話でしょうけど、親でない人や子どもが保育園小学校に行っていない家庭も結構あるかと思うので、もう子どもは卒業しちゃったよという人たちの家庭そういったところと今回の無償化する家庭とのバランスをどうするのか、却って不公平にならないようなことも一緒に考慮しながら考えていくことが大事なのかなと思っていますのでよろしくお願いします。

唐澤町長

齋藤次長

事務レベルでどうですか

無償化に向けて財源確保の課題があります。その確保に向けて国からもそういった支援があるのか、町や教育委員会の中でも、子育てやこういう無償化を優先する場合は、他の違うところをちゃんと節約したりして、お金を少しでもこういった方へ生み出せるような努力はしていかななくてはいけないと思います。そういったものをしっかり積み上げて作っていきたいと考えております。

唐澤町長

橋場委員

よろしいでしょうか。最後になりますが病院の誘致です。

私は飯島町で子どもを産んで育てていますが、飯島町の保健師さんは、子どもを産んで3ヶ月で自宅へ訪問してくれる。私のように県外から来た母親に対して、友だちができるように、いっ子センターがありますよ。というようにしてくれるのが手厚く、飯島町の子育てに関してはありがたいと思っています。小児科では今、のどかクリニックさんにお世話になっているのですが、朝9時に行くと1日の予約がいっぱいで取れない状況です。そのようなことから小児科を増やしてほしいということや、眼科医で、学校の校医についてもどうしていくのかお聞きしたい。

唐澤町長

お医者さんはですね、なかなか難しいところもあります。町内の先生も少し年齢が上がりまして、どうしても時間制で診られない方たちも多くなってきました。町では今、七久保地区にそういった医院がないものですから、そちらへ小児科や内科などそういったお医者さんを誘致したいと考え、色々ところへ当たっているところであります。なかなか地域医療に取り組んでいただけるお医者さんが少ないもので、すぐ飛んでくようにはいきませんがしばらく様子をみていただければと思います。眼科については町内の皆さんからも非常にご希望が多いです。白内障とか緑内障が非常に増えており、高齢者の皆さんからも眼科についてはご希望を頂いております、両方合わせて、お医者さんの誘致

片桐教育長

を進めていきたいと考えています。

眼科医ですが来年度、学校の集団検診が困っている状況です。山村先生が宮田、駒ヶ根、飯島の学校医として関わっていた状況だったので、教育委員会の保健師も困っている状況で、私から県の保健厚生課の方へ連絡を取りました。結論から言うと、集団検診は内科医でもいいですという話でした。どうしても健康診断表というものが子どもたち一人一人にあり、それが6月30日までの間に集団検診を行わなければならないという約束事になっており、無理ですという話をしたのですが、県内でもかなり難しいようです。それでいいのかと思いますが、とりあえず内科医でもいいとの結論で、ただ何年かに一回は専門の先生に診ていただく機会を作ってくださいということでした。眼科医については全国的にも困っているところがあるようで、集団検診の検査項目から抜くことはできないかと尋ねたら、それは文科省には言っている。文科省は厚生労働省に依頼をかけている。厚生労働省は医師会に声をかけている。ということのようで、たらい回し状態のようで消えていくのかと思います。眼科医については、町長さんがおっしゃる通りお年寄りや、集団検診を含め困っている状況です。この辺をみても眼科医は特定されますよね、数に限りがあるところの状況だという話です。

副町長

眼科医は上下伊那合わせて数人ぐらいしかいないです。山村先生も貴重な眼科医でした。ここらでは、駒ヶ根、伊那、高森にあつて飯田、おそらく上伊那医師会や下伊那医師会も分かっているとは思いますが、回せれないというのが現状だと思っています。自分の診療と依頼されたものについて手一杯でやっているのだろうなと思います。内科、小児科、眼科は必要だと思っていますが、お医者さんも必ずここに来てやりたいという方はそんなにいらっしゃらないところです。結婚してらっしゃるとご家族のこともありますので、その辺を見ないと誘致してもなかなか来ていただけないし、誘致する段階で話をしてもダメになる。私も何件かあたりましたがなかなかいらっしゃらないのが現状です。教育長さんも色々ご苦労されているようですが、眼科については、上伊那医師会に言っても日本医師会に言っても同じような答えしか返ってこないと思っています。我々としても地域に根付いていただけるようなお医者様でないとか来ていただいても困るので、そこら辺のことも含めて誘致は町長が言ったようにやっておりますが時間はかかるかなと思っています。できるだけ早く要望には応えたいところですが厳しい面もあるのでよろしくお願いしたいと思います。

唐澤町長

小児科もそうですが産婦人科も少ないですから、産婦人科のことも少し頭に入れながら色々相談に乗れるような体制作りを作っていきたいと自分の中では思っています。すぐに飛んでいくわけにはいきませんが、できるだけ早い時

齋藤次長

期に、まずは内科で、内科、小児科含めて先生を探して是非七久保、町内へ来ていただけるように働きかけをしていきたいと思います。

一応出していただいた項目は全部終わりましたが、全体を通して何かご意見等ございましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。短い時間で大変恐縮でございますけれど、こういった機会を持つていくのはもちろんですが、先程来ありましたように最初の2項目については懇談したり研究したりする場を設けていくということでもありますので、その席の中でしっかりとご意見をいただければと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

それではありがとうございました。お時間も来ておりますので、今後また事務局の方も町長さん、教育委員会の皆さんもご意見を参考にさせていただきながら活かして参りたいと思います。それでは、以上をもちまして令和5年度第1回飯島町総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。